



創立昭和46年
(Founded 1971)

日本学術会議協力
学術研究団体

CAJ News

日本コミュニケーション学会ニュースレター
ホームページ: <http://www.caj1971.com>

日本コミュニケーション学会 事務局

〒480 1197 愛知県長久手市片平9
愛知淑徳大学メディアプロデュース学部 五島研究室内
電話0561 62 4111 & FAX0561 63 9308 e-mail: cajoffice@caj1971.com



変化・変革・変容を目指す

会長 宮原 哲 (西南学院大学)

猛暑、節電の夏が終わり、大学では後期の授業が本格化しているこの時期、いかがお過ごしでしょうか。101回目のニュースレター発行に際しまして、ごあいさつ申し上げます。

まず、6月16・17両日、京都文教大学・短期大学で、「コミュニケーション学と歴史」というテーマの下開催しました第42回年次大会では、開催校、また関西支部の会員の方々の多大なご尽力によって、成功を収めることができました。さまざまなご迷惑をおかけする結果となりましたことは、ひとえに会長の責任と認識しています。今後に向け、貴重な「教材」といたします。

その年次大会直前の理事会で、「前会長の残任期間は一期目として算入しない」という、何やら超法規的措置のような扱いが提案、承認され、総会でお認めいただき、奇しくもあと一期、2014年5月までの会長再任を仰せつかりました。私のような者が、と思う一方、最後の任期、「あの人に任せて良かった」と思っていただけよう、学会の「変化・変革・変容」を目指します。

コミュニケーションの原点は、自分と人との違いの認識です。もし皆が同じ考えを持ち、同じ方向に進もうとしているのであれば、コミュニケーションの必要はなくなります。文化的背景を異とする相手と接することが増えるグローバル社会では、特にコミュニケーションが重要なカギを握ります。そこでは、「異なるものへの恐れ」の心が大切です。

他の学問領域との違いを探るために「コミュニケーション学とX」のテーマで年次大会を開催してきましたし、来年もX=教育を採用し、立教大学(予定)で開きます。

他の領域や学会から学ぶことも少なくありません。9月7・8日、慶應義塾大学湘南藤沢キャンパスで開催された、「ヘルスコミュニケーション学会」に出席しました。歴史も浅く、「学会」としてはよちよち歩きの状態ですが、2日間のセッション、講演は私たちの学会ではあまり見かけない熱気にあふれていました。この違いはどこから来るのか。健康、医療、看護、介護といったすべての人間が深い関心を持つ課題を中心として展開されていること、それらを取り巻くコミュニケーション行動に関する研究が極めて実践的であること、などが好影響を与えているのではないかと感じました。

コミュニケーション学は、健康や医療などと並んで、いや、それ以上に日常生活ですべての人間が実践する行動、それに至る知識、感情、態度に関するさまざまな疑問点を解明するための学問です。だとすれば、コミュニケーション学会の議論はもっと白熱し、その学会で自分の研究を発表し、多くの人から評価を受けたい、と願う人がもっといても不思議ではないはず。

しかしながら、残念なことに私たちの日本コミュニケーション学会は会員数が減少し、学会発表、ジャーナル共に投稿論文の数も増えない、という状況が続いています。「X」をいくら毎年すげ替えても、学会の将来の展望が明確でなければ、場当たりのものとしかなりません。

そこで今回、会員増強、学会促進の責務を担い、思い切った改善策を立案、検討、実行してもらおう新しい役割を加えました。日本のコミュニケーション学の研究、教育のあり方、社会貢献の方法などについて、これまでとは違った考え方を恐れるのではなく、反対に畏れの念を大切に、変化・変革・変容を目指したいと願っています。

ただ、役員意見には限りがあります。今年も可能な限り、支部大会にお邪魔します。その場でお気づきの点、ご希望、ご批判など、直接伺う機会を大切にします。厳しいご意見を恐れずに、あくまでも「違う考えを持つことは良いこと」という畏れの気持ちで。

第42回年次大会報告

大会実行委員長 **森川 知史**（京都文教短期大学）

第42回 CAJ 年次大会が2012年6月16日(土)・17日(日)の両日、京都文教短期大学（京都府宇治市）で行われました。大過なく無事終了まで漕ぎ着けましたのも、多くの方々のご協力・ご支援あってのことと深く感謝申し上げます。猛暑の中、ご多忙中にもかかわらず、ご参集いただきました多数の会員の皆様にあらためて御礼申し上げます。

今年度の統一テーマは、「コミュニケーション学と歴史」でした。

基調講演者として京都大学准教授の佐藤卓己先生に「メディア史の可能性」と題したご講演をお願いしました。特別セッションでは「1930年代の雄弁界の問題意識 - 雑誌『雄辯』を手がかりとして」と題して、帝京大学総合教育センターの井上義和先生のご講演を伺いました。さらに、公開シンポジウムとして「原発とコミュニケーション」も用意、前半部では、大阪大学コミュニケーションデザインセンターの小林傳司先生にご講演いただき、参加型テクノロジーアセスメントに関する興味深いお話を伺いました。また、後半部のパネルディスカッションでは、小林先生を交えて問題を深めていただきました。2日間にわたる研究発表では、充実した議論と意見交換が行われ、コミュニケーション学についての理解がさらに深まったことと思います。コミュニケーション研究者が個々の問題意識と研究的関心から議論を深め、情報共有と意見交換を行うことができたのではないかと存じます。

ご講演・研究発表・パネル討議のどれも、興味深く充実したプログラムとして成功裏に終わりましたことを報告申し上げますとともに、これもひとえに会員の皆様のご支援とご協力の賜と深く感謝申し上げます。

運営面では至らないことが多々あったことを承知しております。実行委員長として、皆様に深くお詫び申し上げます。今回の経験と反省を今後の大会の質的な向上に結び付けていただけるよう願っております。

最後に、お世話になりました関係各位の皆様へ厚く御礼申し上げます。

総会報告（2012年6月16日 14:40 - 15:40）

1. 総合司会の松本事務局長より、総会第1部の開始が宣言された。宮原会長、開催校の京都文教短期大学の安本義正学長より、歓迎の挨拶が述べられた。
2. 守崎学術局長より、学会賞受賞者の末田清子、田崎勝也、猿橋順子、抱井尚子の各氏（『コミュニケーション研究法』ナカニシヤ出版、2011年）、奨励賞受賞者の松永正樹氏（「これからの『統計』の話をしよう～日本のコミュニケーション研究者のための最先端手方案内」『ヒューマン・コミュニケーション研究』40号、2012年）が紹介され、宮原会長より各氏に贈呈された。
3. 感謝状が、清宮徹・前年度年次大会実行委員長に贈呈された。
4. 森川知史・第42回大会実行委員長より、挨拶が述べられた。
5. 清宮学術局副局長より、事務連絡が行われた。
6. 松本事務局長より、第1部の閉会が宣言された。
7. 引き続き、松本事務局長より会員向け報告・審議を行う第2部の開会が宣言され、池田理知子会員（国際基督教大学）の議長就任、および與古光副事務局長の書記就任が、拍手で承認された。
8. 池田議長より、会則39条では、「会員総数の5分の1以上の出席」が議決の条件であることが確認された。それに基づき、現時点における会員数418名の内、総会出席者59名、委任状95名の合計154名（会員数418名÷5=84名）で、総会が成立したことが確認された。
9. 宮原会長より、2012年6月1日より発足した新体制、ならびに役員人事案が発表され、拍手で承認された。
10. 宮原会長より、2011年度事業報告として：(1)第41回記念年次大会の開催（於：西南学院大学、大会テーマ：「コミュニケーション学と人間科学」）、(2)3回の理事会開催、(3)各支部大会の開催、(4)3回のニュースレター発行、(5)2冊のジャーナル刊行（論文3本を含む）が報告された。この中で、会長が全国の7支部大会全てを訪問し、会員同士の結束、ならびに本学会全体の団結と発展を呼び掛けた。
また、2012年度事業計画として：(1)近年、僅かずつではあるが、退会者が増加しつつある現状を踏まえ、コミュニケーション学に対する認識の更なる向上、ならびに本学会活動の活性化を図る目的で、今回より担当理事職（会員増強担当、企画・学会促進担当）を新設したこと、および、(2)今後、ニュースレターを電子版へ移行することが報告された。最後に、今後数年間へ向けての、暫定的な年次大会開催予定地が発表された。
11. 鳥越副事務局長より2011年度決算報告として、以下の点が示された。

1) 収入

- ① 「年会費収入」に関しては、複数年度分を一括した納入が数名分あったことに伴い増収。
- ② 「電子図書サービス関連」は、昨年度に引き続き増収。

2) 支出

- ① 「ジャーナル発行費」項目内・「印刷費」および「通信費」に関しては、同じ発行部数（600部）であったものの、大幅にページ数が増加した昨年度分とは異なり、今年度は減額。
- ② 「ニュースレター費」は、通常は毎年3号分であるが、会計業務の引き継ぎが終了した2011年6月以降に、第96号の請求があったために、2011年度分に計上された。その結果、合計4号分として増額。
- ③ 「人件費」に関しては、実行委員の人数が少なかった為、学生アルバイト17名を依頼したことにより、予算額を上回った。
- ④ 「理事交通費」に関しては、関東支部以外の理事が増員したことにより、予算額を上回った。
- ⑤ 「支部活動助成金」は、5支部より申請があり、認可された。

五十嵐紀子監事（新潟医療福祉大学）より、厳正な監査の結果、適正な会計処理が行われていることが報告された。上記の内容が、拍手で承認された。

12. 鳥越副事務局長より2012年度予算案として、以下の点が示された。

1) 収入

- ①「年会費」に関しては、学生会員ならびに準会員数の現状に合わせて減額する。
- ②「大会参加費」に関しては、今年度年次大会の状況を考慮して作成。

2) 支出

- ①「ジャーナル発行費」項目内「印刷費」は、現状に応じて減額した。
- ②「年次大会関係費」項目内「プログラム費」および「プロシーディング費」の「印刷費」は、2009年度レベルに戻した。「ポスター制作費」は、今回の年次大会において、第40回大会以来2年ぶりに制作したことにより、その分が計上された。
- ③「会議費」項目内「理事交通費」は、関東在住以外の理事の増加に伴い増額した。
- ④「積立」は、今年度も継続する。

上記の内容が拍手で承認された。

13. 司会の松本事務局長より、総会終了が宣言された。

学 術 局 報 告

2011年度学会賞報告

学会賞：書籍の部（教科書・啓蒙書の部）

末田清子・田崎勝也・猿橋順子・抱井尚子編著『コミュニケーション研究法』（ナカニシヤ出版）は、これまで必要性が認識されながらも日本語の書籍としてまとめられてこなかったコミュニケーション研究法を包括的に紹介しており、日本のコミュニケーション学に対する貢献は大きい。特に、量的研究法と質的研究法の両方を実例付きで紹介していること、その際、研究方法を単なる道具と捉えるのではなく、その思想的な背景にも触れていること、導入編でコミュニケーション研究の歴史の変遷や研究倫理といったより一般的なトピックを取り上げていることなど、バランスのとれた構成となっており、編著者の力量がうかがえる。

不満を挙げるとすれば、人文（科）学としてのコミュニケーション学の記述が非常に乱暴な点である（例えば、NCA 刊行の *Communication Scholarship and the Humanities* では、人文（科）学としてのコミュニケーション学が本書の記述よりもはるかに多種多様な学問領域として紹介されている）。より具体的には、コミュニケーション学が対象としている「コミュニケーション」の概念、特にその中心となる「意味」の概念をどう捉えるかについての記述がもう少しなされると、理論との接続や方法論を通してのコミュニケーション観の違いなどをより明確に浮かび上がらせることができたように思われる。また、章によって程度こそ違おうが、取り上げられている文献が主として英語圏のものであり、日本のコミュニケーション研究がこれまでどのように寄与し、現在どのような状況にあるのかといった点が本書から見えづらいことは、日本のコミュニケーション研究を担ってきた本学会にとっては残念である。

しかしながら、「社会科学としてのコミュニケーション学」(p.6)の主な研究アプローチを紹介するという同書の目的は十分に達成されており、コミュニケーション学の研究領域の紹介に主眼を置いた本学会の40周年記念図書とともに、同書はコミュニケーション学を専攻する学部生や大学院生にとって最良の「教科書」の一つと位置づけられる内容を有している。同書の刊行を契機として、人文（科）学系のコミュニケーション研究者の間で、自らの領域における研究アプローチを紹介・解説する動きが高まることを期待しつつ、同書に対して「学会賞」（教科書・啓蒙書の部）を授与することとしたい。



奨励賞：論文の部

松永正樹著「これからの『統計』の話をしよう：日本のコミュニケーション研究者のための最先端手法案内」（ヒューマン・コミュニケーション研究、第40号掲載）は、コミュニケーション学で用いられている最先端の統計手法を取り上げ、それらを単に紹介・解説するだけでなく、それぞれの利点や問題点を整理した上で、今後の研究動向の予測まで行なった、秀逸な展望論文である。本学会のジャーナルでは、これまで主として「原著論文」のみが投稿・掲載される傾向があり、他紙で見られるようなこうした「展望論文」が掲載されることがあまりなかった。その点において、本論文は本学会ジャーナルには珍しい質の高い「展望論文」として評価できる。

本論文で展開されている内容は、量的な調査研究に関心を寄せ、量的研究に携わってきた研究者にとっては既知の情報も多いが、近年の量的研究に関わる動向が適切かつ分かりやすいかたちでまとめられており、会員に対して有益な情報を提供し、貢献度も高い。一方で、先行研究の総括という意味合いが強いため、オリジナリティの点ではその整理の方法や分類の仕方に「学会賞」を授与するだけの十分な独創性や革新性があるとは言い難い。しかし、本稿の学問的な厳密さや文章の洗練度は高く、上記のような日本のコミュニケーション学の発展に対する貢献度を考慮し、本稿に対して「奨励賞」を授与することとしたい。

ジャーナル投稿について

『ヒューマン・コミュニケーション研究』および『スピーチ・コミュニケーション教育』への論文のご投稿は一年を通じて受け付けています。

投稿方法はこれまで紙媒体の原稿を学会支援機構に送付することになっていましたが、**今年度より、ワード等で作成したファイルをジャーナル専用のメールアドレスに添付して送信していただくよう変更しました。**

現行の投稿規程第7条では、論文の「オリジナル」、論文とシノプシスの「コピー3部」を送付することになっていますが、今回から、**(1)「論文」、(2)「シノプシス」、(3)論文題名と応募者の名前（必要ならば謝辞）、所属、連絡先の電話番号、ファックス番号、メールアドレス（以上投稿規程参照）、ファイル作成に使用した機種を記したものを、以上3つのファイルを添付したメールをお送りください。**その際、メールの件名を「**日本コミュニケーション学会ジャーナル投稿論文**」としてください。

メールアドレスは以下の通りです。

journal@caj1971.com

当該年度の締め切りはこれまで通り7月末日です。

なお、ジャーナル投稿に関する問い合わせは、ジャーナル担当理事・吉武（larsnunn@fukuoka-edu.ac.jp）までお寄せください。

近年投稿者数が伸び悩み、ジャーナルの規模が大幅に縮小されています。現在、今回の投稿方法の変更を含め、ジャーナルの形式や発行時期の変更、査読システムの改善等の「ジャーナル改革」を進めており、近々その全貌をお知らせできるものと思います。

去年私はニュースレターにこんなことを書きました。

学会誌は学会の「顔」であり、祭りに例えるとみんなで担ぐ「^{みこし}神輿」です。一人でも多くの学会員がこの「祭り」に参加していただき、ジャーナルおよび学会を盛り上げていただければ幸いです。

1年たった今も同じ気持ちです。多くの方に本学会に加入していただき、幅広い視点から議論を重ね、思考を深め、日本におけるコミュニケーション研究をともに発展させていきましょう。

学会・ジャーナルを本当の意味で支えるのは、現在「いじっている」システムではありません。「人」です。つまり、皆様一人一人のお力が必要です。どうぞふるってご投稿くださいますようお願い申し上げます。熱気あふれる論考をお待ちしております。

第43回年次大会発表論文募集

日本コミュニケーション学会は、2013年6月中旬*に、立教大学（東京都豊島区）で第43回年次大会を開催いたします。本年度の大会テーマは「コミュニケーション学と教育」です。このテーマのもと、多数の企画を準備すると同時に、会員の皆様からの研究発表を募集いたします。**応募にあたりプログラムに掲載される要旨と大会プロシーディングス出版用の要旨の2種類をご提出ください。**

① プログラム掲載用要旨

和文800字以内、英文300語以内。

② プロシーディングス掲載用要旨

和文要旨は3000字以内（脚注を含む）、英文は1000語以内（脚注を含む）。

いずれも、A4版2枚にすべてを収めること。

なお、パネル応募の場合も、プロポータルに加えて、それぞれの発表者の要旨を別々に含めること。詳しくは、別紙のプロシーディングス投稿規定を参照のこと。

応募の際は、メールの題目/subjectに「CAJ submission：氏名」と必ず明記し、担当理事の清宮宛（kiyomiya@seinan-gu.ac.jp）まで電子メールでお送りください。応募の際、この手順に従っていただけない場合、自動的にスパムメールとして処理され、メールが行方不明となることもありますのでご注意ください。応募締め切りは2013年2月20日(水)となりますので、期日には十分にご留意ください。

大会の個人研究発表では、第一筆者（及び発表をおこなう当事者）がCAJの会員であることが規定によって定められています。応募時までにCAJの会員登録をお済ませいただき、氏名の下に会員番号を表記下さい。また年会費の未納のため、近年、会員資格の失効が発生していますので、あわせてご注意ください。

発表申し込みに関しましては、学会ホームページ（<http://www.caj1971.com/>）でもご覧いただけます。活気に溢れた大会になるよう、積極的に発表申し込みをいただきたく存じます。

（*年次大会の日程が具体的に決定次第、CAJホームページからお知らせします。）

Call for Papers for the 43rd CAJ Annual Convention

The Communication Association of Japan will hold its 43rd Annual Convention on Saturday, in the middle of June*, 2013, at Saint Paul's University (Rikkyo University) in Toshima-ku, Tokyo. The theme of the Convention will be "Communication Studies and Education." CAJ will be inviting proposals for individual or panel presentations for competitive research papers dealing with any subjects of communication studies. Those wishing to propose a paper presentation or a panel discussion should send an e-mail with a word file of the abstract as an attachment to Toru Kiyomiya, Deputy Director of Academic Affairs, at kiyomiya@seinan-gu.ac.jp by Wednesday 20th, 2013.

We will publish conference proceedings with abstracts. Two forms of abstracts should be submitted.

(1) For the convention program:

300 words or less in English or 800 characters or less in Japanese.

(2) For the proceedings:

Maximum of 1000 words in English (including foot/endnotes) or 3000 characters in Japanese (including foot/endnotes). The total volume of abstracts must be limited to 2 pages printed on A4-size paper. Refer to the Submission Guidelines for CAJ proceedings, and precisely follow the guidelines. Those who propose a panel should also send abstracts of individual presentations in addition to a panel proposal.

Also, at your submission, please specifically type “CAJ submission:[name]” on the subject of your mail. Failure to specify the subject as such may result in identifying your e-mail as a spam so that the mail will automatically be disposed.

The first author of a paper as well as a presenter in the Convention is strictly limited in the CAJ members. If these responsible persons don't have the CAJ membership, please join the CAJ before submission and indicate the membership number on your paper. We also recommend that you clarify your current status of the membership because it is often lost by not paying the annual fee.

Those of you interested in submitting a proposal, please refer to the CAJ homepage (<http://www.caj1971.com/>) for the submission requirements. We look forward to seeing you in Tokyo!

(* The date of the 43rd Annual Convention will be informed on the CAJ website as soon as it is decided.)

事務局報告

事務局からのご報告とお願い

1. 大会プロシーディングスの販売

年次大会のプロシーディングスの残部（第37～42回分）がございます。一部¥1,000（送料、税込み）で販売しております。購入を希望される方は、学会支援機構までご連絡ください。

2. 会費納入のお願い

年会費の振込用紙を7月にお送りしました。未納の方はお早めにお振込みくださいますようお願い申し上げます。

3. 学生会員・準会員登録申請締め切り

大学院生対象の学生会員、学部生対象の準会員としての登録は、7月末日をもって締め切りました。前年度学生会員、準会員であった方で新たに登録をされなかった方は自動的に一般会員に切り替えますのでご了承ください。なお、すでに今年度の学生会員、準会員の会費を振り込み済みで、登録をされなかった方には差額を請求させていただきます。

4. 住所等変更届のお願い

住所や所属が変更になった場合には、速やかに学会支援機構までメールまたは葉書でご連絡いただくか、学会ホームページでのWebシステム上での変更をお願い致します。パスワードを忘れた場合、生年月日が登録されていればご自身での確認が可能です。パスワードをお忘れになり、かつ、生年月日を登録されていない場合は、生年月日の登録を直接学会支援機構までご依頼ください。なお、年会費の振込用紙での変更届けはできませんので、ご了承ください。

5. ジャーナルバックナンバー、記念図書の購入申込みと閲覧・複写申込み

ジャーナルバックナンバーなど学会発刊物をご購入されたい場合は、学会支援機構にお問い合わせください。国立情報学研究所の論文情報ナビゲータ CiNii (<http://ci.nii.ac.jp/>) に、著者により公開可とされた論文が掲載されており、閲覧・印刷することができますので、こちらも是非ご利用ください。同サービスを利用せず、複写をご希望の場合は、学会支援機構までお問い合わせください。（住所は最終ページに掲載）

広報局便り

(1) 第42回年次大会の広報局活動

第42回年次大会は、広告、展示とも多くの企業からご協力をいただくことができました。厚く御礼申し上げます。

ます。

- ① プログラムの広告：株式会社京都書房、(株)キャンパスサポート西南、春風社、大修館書店、同文館出版、財団法人日本英語検定協会、ひつじ書房、ラーニングバリュー、有斐閣（五十音順）
- ② 書籍・教育機材の展示（全社両日）：株式会社京都書房、株式会社三修社、ナカニシヤ出版、財団法人日本英語検定協会、ひつじ書房、ラーニングバリュー（五十音順）

広報局では、次年度の大会にむけて、引き続き努力を続けます。皆様も、ご紹介いただける企業がありましたら、ぜひ広報局にご推薦・ご連絡をください。

(2) 各支部の年次大会等

支部ニュースに詳しい予定が掲載されておりますので、そちらをご一読ください。

(3) 広報局からのお知らせ

- ① 新しい試みとして、これまで通り紙媒体のミューズレターを送付する他に、ホームページにもニュースレターのPDF版（内容の一部削除）を掲載することにいたしました。今回の号からホームページ上でもPDF版が閲覧可能になります。
- ② 第42回大会の様子をご覧いただける写真をホームページにアップしました。皆様、ぜひ一度ご覧頂き、感想などご意見を頂戴したいと思います。
- ③ 広報局では他学会の情報や教員公募情報なども積極的にアップしていくことにいたしました。現在も、いくつかの研究学会の年次大会案内や教員公募などの情報をアップしています。ぜひ、ご活用ください。皆様からも、国内だけでなく、海外の学会を含めて関連する講演会や研究会があれば情報として広報局までご一報下さい。ホームページにアップしたいと思います。
- ④ 広報局では、任期満了により北本晃治先生（帝塚山大学）が副広報局長を退任されました。ご苦勞様でした。北本先生のご後任として、新たに小山哲春先生（京都ノートルダム女子大学）が副広報局長をお引き受け下さいました。広報局は、新たな3人のメンバーで、これまでどおり適切な広報活動を展開していきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

ホームページ（<http://www.caj1971.com>）は、適宜更新しております。ご覧下さり、ご意見やご質問を頂ければ幸いです。

会 員 著 書 紹 介

塚原康博『医師と患者の情報コミュニケーション - 患者満足度の実証分析 - 』薬事日報社、2010年9月発行。

本書は、「医療コミュニケーション」を扱っており、医師と患者間での情報提供やコミュニケーションにおける認識ギャップ、患者満足度を高めるための医師と患者のコミュニケーションのあり方、日、米、英、独、仏の5カ国における患者満足度を規定する要因などについて定量的な分析を行ったものです。2011年度日本社会情報学会(JASI)・学会賞「優秀文献賞」を受賞しました。高齢化が進む日本において、医療コミュニケーションは、注目されており、本学会における研究テーマとしても重要性が高まっていくと考えられます。ぜひ会員の皆様にもご一読いただくと幸いです。

大石加奈子『エンジニアリング・ファシリテーション 話し合いをうまくまとめるコミュニケーション・スキル』森北出版、2011年10月

企業現場では毎日が解決すべき問題の連続である。それらの問題は専門知識だけでは解決しにくい。人間の複雑な感情や各々の立場を考慮しながら話し合いによる創造的な問題解決をする能力、一人ひとりが目標に向けて主体的・積極的に行動できる能力などが必要になる。つまり答えのない問題に対する解決行動はコミュニケーション能力によって起こせるのである。本書はそのようなコミュニケーション能力を身につけるために役立つ。

本書に紹介した内容は、行動科学や脳科学の理論に裏付けられた方法であるため、合理的に創造的解決策が生まれ、個々のメンバーには、目標に向けて自らの考えで行動できる主体性が継続する。製造業・通信業など企業現場で活用できるだけでなく大学などの教育現場、問題解決力をつけたい学生にも役立つ一冊である。

支 部 ニ ュ ー ス

北海道支部

支部長 町田佳世子

北海道支部では第21回北海道支部研究大会を下記のとおり開催いたします。今回の大会テーマは「分野別コミュニケーションを考える」です。研究発表のほか、川内規会先生（青森県立保健大学）、森越京子先生（北星学園大学短期大学部）、平野たまみ氏（株式会社あるた出版代表取締役社長）をパネリストとしてお迎えして、大会テーマである「分野別コミュニケーションを考える」についてシンポジウムを開催します。医療現場や観光業で求められるコミュニケーションはどのようなものか、そして経営者が求めるコミュニケーションやコミュニケーション能力は何か、分野によって求められるコミュニケーションに違いはあるのかなどを、パネリストとフロアでともに考えていきたいと思っております。

各支部からのご参加も大歓迎です。雪の便りを待つ札幌で皆様にお目にかかれることを楽しみにしています。

1. 日時：平成24年11月10日(土)午後1時～6時くらい(予定)
2. 場所：藤女子大学 北16条キャンパス（札幌市北区北16条西2丁目）
3. テーマ：分野別コミュニケーションを考える
4. 大会参加費：無料

* 研究大会終了後に懇親会を予定しています。

尚、2011年10月の北海道支部総会にて、2012～2013年度支部役員として以下の5名が承認されました。これまで長きにわたり北海道支部のためにご尽力いただいた村上佳寿子先生と目時光紀先生が2011年度をもってご退任となり、新メンバーでのスタートです。皆様のお力添えを心からお願いいたします。

伊藤 明美（藤女子大学） 足利 俊彦（北海道医療大学）
白鳥亜矢子（北海道医療大学） 水島 梨紗（札幌学院大学）
町田佳世子（札幌市立大学）

東北支部

支部長 小林 葉子

東北支部年次大会に関しましては以下の予定で準備を進めております。東北支部の先生方はもちろん、多くの先生方に秋の青森にお越し頂きたいと思っております。東北支部名物のお菓子コーナーをご用意してお待ちしております。

1. 2012年10月20日(土)
2. 会場：青森県観光物産館アスパム
3. アクセス：青森駅より徒歩10分以内。青森駅までは青森空港よりバスで35分程度。青森駅（在来線）と新青森駅（新幹線）は同じ駅構内にはありません。新幹線をご利用の場合は、新青森駅から在来線に乗り換え（一駅）、青森駅までお越しください。
4. 参加費：無料（懇親会費は別）
5. 参加申込・問い合わせ：小林葉子（yokobaya@iwate-u.ac.jp）
6. 不規則ではありますが、東北支部ブログに大会の最新情報を掲載して参ります。http://tohokucaj.jugem.jp/ こちらもご覧下さい。

大会プログラム予定

- 12:30～ 受付開始
12:50～13:00 開会式
13:00～16:00 研究発表
16:00～17:00 東北支部・学術局共同企画「これからのコミュニケーション」
（学術局より福岡教育大学・吉武正樹先生ご参加予定）
17:00～17:20 支部総会
17:20～17:30 閉会式
18:00～ 懇親会（アスパム内の居酒屋を予定）

なお、9月下旬発行の東北支部ニューズレターの中でご案内させて頂きましたように、CAJ東北支部は来年度で設立20周年を迎えます。そこで、来年度6月の年次大会に間に合わせる形で、20周年記念誌を発行する準備を始めております。今後とも多くの先生方に支えて頂きながら、東北支部を盛り上げて参りたいと思っております。

中部支部

支部長 福本 明子

2012年6月以降の中部支部の活動を、案内も兼ねて報告致します。

支部会議 6月

2012年6月の年次大会の支部会議で、2011年度の決算報告をしました。

支部パネル 6月

ニューズレター（NL、2012年3月発行）に掲載した書評を基にパネルセッションを企画し、6月の年次大会（京都文教大学・京都文教短期大学）では、「コミュニケーション学とリベラリズムの周辺～その2～」をテーマとし発表してきました。今後も行事間の「つなげる活動」を継続予定です。

支部大会12月8日（予定・調整中）

本年度の支部大会を、12月8日開催の予定で調整中です。博士論文からの発表（森泉哲先生、宮崎新先生）、活動報告（佐藤良子先生）、院生発表（調整中）を予定しております。確定したら、支部HPやMLに掲載しますので、ぜひご参加ください。

書評募集（1月末）

今年度も、書評を募集し、3月発行の支部NLに掲載予定です。テーマは、1）「コミュニケーション学とリベラリズムの周辺～その3～」、2）自由選定（任意で選んでいただいた書籍）です。支部や会員のステータスに関わらず投稿できますので、ふるってご応募ください。詳細は、支部HPに掲載しますので、是非ご覧ください。



関西支部

支部長 森口 稔

9月4日(火)、大阪キリスト教短期大学で運営委員会を開催し、2011年度の秋季研究会について、下記の要領で開催することを決定しました。

日時：11月10日(土)13：30～16：30

場所：大阪キリスト教短期大学

テーマ：日本の落語とコミュニケーション

内容：前年度の研究会と、今年度の年次大会で、関西支部はダイアログリーグという手法に挑戦しました。今回の研究会では、ライトニングトークという手法を用います。また、議論の内容は、関西支部ならではの落語。桂三枝が六代目文枝を襲名し、大阪は落語が旬です。

落語をコミュニケーション学の目からみるとどうなるか。是非、秋の関西にお越しください。



第42回年次大会支部パネルの様子

中国・四国支部

支部長 高永 茂

第15回中国四国支部大会を12月8日・9日の両日開催します。今年度も、医療コミュニケーション教育研究セミナーと共同開催の形をとる予定です。プログラムの内容は、おおよそ次のようになります。

開催日：平成24年12月8日(土)・9日(日)

開催場所：広島大学霞キャンパス 歯学部第3・4講義室（広島市南区霞1-2-3）

対象：CAJ会員、医療系大学の教職員、模擬患者（SP）、学生、一般の方など

テーマ：コミュニケーション、医療コミュニケーション

研究発表：8～9件（募集中）

特別講演：広島大学大学院教育学研究科 柳澤浩哉先生

演題：「映画のレトリック」（仮題）

教育講演：九州大学医療系統合教育研究センター 伊東こずえ先生

演題：「九州大学の記述式フィードバックの活用について」（仮題）

研究発表の時間も十分に設けていますので、ふるってご応募ください。発表の申し込み先は下記の通りです。

〒734-8551 広島市南区霞1-2-3

広島大学病院口腔総合診療科

電話：082-257-5744 FAX：082-257-5717

e-mail：口腔総合診療科 soushin@hiroshima-u.ac.jp

九州支部

支部長 伊佐 雅子

- 1) 九州支部では、日本コミュニケーション学会第19回九州支部大会を10月6日(土)に熊本学園大学で開催します。大会テーマは、「国際化の時代を生きる - コミュニケーション学にできること」です。私たちの暮らしが日々国際化の中で、コミュニケーション学はどんな貢献ができるのかを改めて考える機会にしたいと考えております。特別講演と研究発表を予定しています。特別講演は熊本学園大学経済学部国際経済学科教授のマンガ・マンガ・ルウィン氏で、「グローバル化と発展途上国 貧困の現状と課題を中心に - 」についてお話ししていただきます。九州支部の会員だけではなく、他の支部の方たちも自由に参加して下さることを期待しております。
- 2) 九州支部ニューズレター第21号を今年5月31日に復刊し、すでに支部ウェブサイトアップされています。このニューズレターは年2回の発行で、次号は12月です。今後、第19回支部大会の内容を盛り込んで、発行に向けて準備する予定です。
- 3) 支部研究紀要『九州コミュニケーション研究』(2012年10号)は発行に向けて準備中です。

日本コミュニケーション学会2012年度役員一覧

(2012年6月1日～2013年5月31日)

会長	: 宮原 哲 (西南学院大学)	理事 (企画担当)	: 丸山 真純 (長崎大学)
副会長 (総務担当)	: 五島 幸一 (愛知淑徳大学)	理事 (海外渉外担当)	: 高井 次郎 (名古屋大学)
副会長 (学術担当)	: 青沼 智 (津田塾大学)	理事 (会員増強担当)	: 森口 稔 (京都外国語大学)
事務局長	: 五島 幸一 (愛知淑徳大学)	理事 (企画・学会促進担当)	: 松永 正樹 (立教大学)
副事務局長	: 野中 昭彦 (中村学園大学)	理事 (北海道支部長)	: 町田佳世子 (札幌市立大学)
副事務局長	: 與古光 宏 (九州産業大学)	理事 (東北支部長)	: 小林 葉子 (岩手大学)
副事務局長	: 鳥越 千絵 (西南学院大学)	理事 (関東支部長)	: 綾部 功 (東海大学)
学術局長	: 守崎 誠一 (関西大学)	理事 (中部支部長)	: 福本 明子 (愛知淑徳大学)
副学術局長 (ジャーナル担当)	: 吉武 正樹 (福岡教育大学)	理事 (関西支部長)	: 森口 稔 (京都外国語大学)
副学術局長 (年次大会等担当)	: 師岡 淳也 (立教大学)	理事 (中国・四国支部長)	: 高永 茂 (広島大学)
副学術局長 (年次大会等担当)	: 清宮 徹 (西南学院大学)	理事 (九州支部長)	: 伊佐 雅子 (沖縄キリスト教学院大学)
広報局長	: 山口 生史 (明治大学)	監事	: 五十嵐紀子 (新潟医療福祉大学)
副広報局長 (ニューズレター担当)	: 小山 哲春 (京都ノートルダム女子大学)	監事	: 筒井久美子 (熊本学園大学)
副広報局長 (ホームページ担当)	: 石橋 嘉一 (山形大学)		

学会支援機構の連絡先

〒112 0012 東京都文京区大塚 5 - 3 - 13 小石川アーバン 4 F

一般社団法人 学会支援機構 日本コミュニケーション学会担当

Tel: 03 5981 6011 Fax: 03 5981 6012 E-mail: office@asas.or.jp

編集後記

ニューズレター第101号をお届けいたします。前任の北本先生の後をうけ、今号より小山がニューズレター担当を仰せつかりました。北本先生、長きに渡るお仕事、お疲れさまでした。学会のニューズレターは、単なる情報提供の手段としてではなく、むしろ運営組織と会員の皆様をつなぐ大事な媒介として、また、会員の皆様が学会の存在意義とそこへの帰属意義を感じることでできる刺激として機能すべきものだと思っております。そのような大役を、しかも北本先生の後任に任されるのは大変心許ないのですが、時代とともに変化する情報発信の方法にも対応出来るよう努力を重ねて参りますので、皆様のご指導、ご助力をいただけますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。